

目 次

序 章—フォークランド戦争とは何だったのか？	1
はじめに	1
第1節 フォークランド戦争に至るまでの歴史的背景	1
第2節 サッチャーとフォークランド問題	3
第3節 イギリスの対応	7
第4節 アルゼンチン側の思惑、そして誤算と誤解	9
第5節 イギリスの政治的制約と軍事的制約	10
第6節 戦争指導を考える—「戦時内閣」を手掛かりとして	13
第7節 サッチャーの戦争指導	19
おわりに	26
第1部 フォークランド戦争の外交的側面	29
第1章 フォークランド問題の起源	29
第1節 前 史	29
第2節 交渉開始	29
第2章 1970年代の交渉の進展と停滞	31
第1節 共同管理案の挫折	31
第2節 シャックルトン報告書	31
第3節 シャックルトン事件	32
第4節 キャラハン内閣と防衛問題	33
第3章 サッチャー政権以降のイギリス・アルゼンチン関係	36
第1節 リース案の復活と挫折	36
第2節 アルゼンチンからの警告と情勢判断	37
第3節 危機の進展とイギリスの対応	40
第4節 侵 攻	44
第4章 危機の外交	47
第1節 安保理決議502号とサッチャー戦時内閣	47
第2節 ヘイグ国務長官によるシャトル外交とその頓挫	49
第3節 戦争中の外交	54
第4節 停 戦	55

第5章	メディアの側面	57
第1節	メディア・対メディア政策の歴史とフォークランド戦争	58
第2節	「メディア戦争」のアクター	58
第3節	有事における報道	59
	おわりに	65
第2部	フォークランド戦争の軍事的側面	68
第6章	イギリス軍およびアルゼンチン軍の状況	68
第1節	アルゼンチン軍	68
第1項	アルゼンチン軍の陸上兵力	69
a	全般	69
(a)	アルゼンチン陸軍	69
(b)	アルゼンチン海兵隊	70
b	兵器	70
(a)	小火器	70
(b)	火砲	70
(c)	装甲車両	71
(d)	対空兵器	71
(e)	フォークランドに配備された陸上兵力	71
第2項	アルゼンチン軍の海上兵力	73
a	全般	73
b	兵器	73
(a)	潜水艦	73
(b)	航空母艦	74
(c)	巡洋艦	75
(d)	駆逐艦・フリゲート艦	75
第3項	アルゼンチン軍の航空兵力	76
a	全般	76
(a)	空軍	76
(b)	海軍航空隊	77
(c)	陸軍航空隊	77
(d)	航空基地	77
b	戦闘機	78

c	攻撃機	79
d	爆撃機	80
e	軽攻撃機	80
f	偵察機	81
g	哨戒機	81
h	輸送機・空中給油機	81
i	ヘリコプター	82
j	フォークランド諸島における航空警戒管制	83
第2節	イギリス軍	83
第1項	イギリス軍の陸上兵力	84
第2項	イギリス軍の海上兵力	85
a	全般	85
b	海軍艦艇	86
(a)	潜水艦	86
(b)	航空母艦	86
(c)	ミサイル駆逐艦	88
(d)	フリゲート艦	89
(e)	強襲揚陸艦	90
(f)	哨戒艇等	90
c	イギリス艦隊補助部隊(RFA)の支援船舶	91
(a)	艦隊給油艦(Fleet Oiler)	91
(b)	支援給油艦(Support Oiler)	91
(c)	艦隊補給艦(Fleet Replenishment Ship)	91
(d)	物資支援船(Store Support Ship)	91
(e)	ヘリコプター支援船(Helicopter Support Ship)	91
(f)	後方揚陸船(Logistic Landing Ship)	91
d	イギリス海上補助機関((Royal Maritime Auxiliary Service: RMAS)	92
e	徴用船(Ships Taken Up From Trade:STUFT)	92
第3項	イギリス軍の航空兵力	92
a	全般	92
(a)	空軍	92
(b)	海軍航空隊	93
(c)	陸軍航空隊・海兵隊	93

b 戦闘機	93
c 攻撃機	94
d 爆撃機	95
e 哨戒機	95
f 空中早期警戒機	96
g 空中給油機	97
h 輸送機	97
i ヘリコプター	98
第7章 統合作戦の観点から見たフォークランド戦争	101
第1節 全般	101
第1項 イギリス軍	101
第2項 アルゼンチン軍	102
第2節 統合という観点から見たイギリス軍	102
第1項 部隊編成から見た統合の状態	102
a 海兵隊と陸軍の混成部隊となった陸上軍の編成	103
b 任務部隊の司令部と戦時内閣との関係	105
(a) 参謀長委員会議長ルウィン大将	105
(b) ノースウッドの任務部隊の司令部とフィールドハウス司令官	106
(c) 戦時内閣と交戦規定	107
c 主要な指揮官	110
(a) 任務部隊司令部の司令官と参謀	110
(b) 現場の指揮官	111
(c) ノースウッドと現場の指揮官による会議	112
d 第一海軍卿ヘンリー・リーチ大将の進言と任務部隊の編成	113
e その他（イギリス任務部隊の使用した時間帯）	115
第2項 イギリス軍の統合に関する歴史的な背景	116
第3項 水陸両用作戦における統合の状況	120
第4項 任務群の指揮官の間の論争	124
第5項 フィールドハウス・スタイルの任務部隊司令部	129
第6項 「コーポレート作戦」におけるイギリス空軍の貢献	134
第7項 統合の観点から見た失敗事例（フィッツロイにおける上陸）	137
第3節 統合という観点から見たアルゼンチン軍	142
まとめ	145

第8章 海上作戦の観点から見たフォークランド戦争	149
第1節 イギリス軍の水上部隊の動き	149
第1項 密かな編成と進出	149
第2項 華やかな編成と進出	153
第3項 空母戦闘群の行動	154
第2節 イギリス軍の潜水艦の運用と交戦規則	159
第3節 イギリス水上部隊による敵兵力漸減の試み	168
第1項 制海権の確立	169
第2項 航空優勢の未達成	174
第4節 アルゼンチン任務部隊とイギリス空母戦闘群の対決	174
第1項 アルゼンチン巡洋艦「ヘネラル・ベルグラノー」の撃沈	174
第2項 経緯	176
第3項 アルゼンチン海軍の作戦行動の変遷	180
第4項 イギリス軍の交戦規定の変更	183
第5節 イギリス駆逐艦「シェフィールド」の沈没	185
第6節 サン・カルロス上陸における海軍	193
第1項 空母戦闘群と水陸両用群の合同	193
第2項 サン・カルロス上陸における欺瞞（陽動）作戦「トルネード」	194
第3項 サン・カルロスへの上陸	196
第4項 イギリス上陸部隊に対する支援	199
第5項 アルゼンチン空軍の反撃とイギリス艦艇	200
第6項 アルゼンチン海軍の作戦の経緯 - 決戦から「現存艦隊」へ	205
第9章 陸上作戦の観点から見たフォークランド戦争	208
第1節 アルゼンチン軍の侵攻	208
第1項 フォークランド諸島侵攻計画の立案	208
第2項 侵攻作戦の突然の前倒し	209
第3項 フォークランド侵攻作戦部隊の計画とその編成	209
第4項 イギリスのフォークランド陸上防衛態勢	211
第5項 侵攻作戦の始まり	212
第6項 イギリス海兵隊兵舎への攻撃	213
第7項 総督公邸への最初の攻撃と失敗	214
第8項 アルゼンチン海兵隊主力の上陸とフォークランド諸島の完全占領	215

第9項	サウス・ジョージア島の占領	217
a	アルゼンチン軍のサウス・ジョージア島占領決心	217
b	イギリスのサウス・ジョージア島への兵員配備	217
c	サウス・ジョージア島の占領	218
d	まとめ	220
第2節	アルゼンチンのフォークランド陸上防衛体制	221
第1項	アルゼンチン軍のフォークランド諸島投入部隊と装備等	221
第2項	アルゼンチン軍のフォークランド防衛構想	225
第3節	イギリス軍の反攻準備	226
第1項	イギリスの迅速な部隊派遣	226
第2項	イギリスのアルゼンチン陸軍に対する見積もり	227
第3項	初期のイギリスの上陸作戦方針の変遷	228
第4項	イギリス軍指揮官の作戦に対する考え	230
第5項	上陸作戦概略の策定	232
第6項	第5歩兵旅団の増強	233
第7項	上陸地点の選定	234
第8項	上陸作戦実行の指示	236
第9項	上陸作戦実施の最終的決心	239
第10項	特殊作戦部隊による対航空作戦	239
第11項	上陸作戦実施前の計画細部修正	240
第4節	イギリスによるサウス・ジョージア島奪回	243
第1項	サウス・ジョージア島をめぐる状況	243
第2項	イギリスの部隊派遣と作戦計画	243
a	部隊編成	244
b	作戦計画	244
第3項	イギリス軍のサウス・ジョージア島への先行偵察隊の派遣	246
a	フォーチュナ氷河における失敗	246
b	グリトヴィケン偵察も失敗	247
c	リースの偵察成功	248
第4項	アルゼンチン軍のサウス・ジョージア島配備	248
第5項	サウス・ジョージア島の奪回	249
a	グリトヴィケンの奪回	249
b	リースの奪回	250

第6項	まとめ	251
第5節	イギリス軍のサン・カルロス上陸	252
第1項	第1波、第2波の上陸とアルゼンチン軍「鷲分遣隊」の駆逐	252
第2項	揚陸の継続	255
第6節	グース・グリーンでの戦い	257
第1項	イギリス軍がグース・グリーンでの戦闘を決意するまで	257
a	サン・カルロス上陸後の陸上作戦の方針	257
b	状況の変化と陸上作戦の変転	259
第2項	アルゼンチン軍の態勢	262
a	上級組織の改編	262
b	グース・グリーンでの防衛	263
c	イギリスの攻撃計画	265
d	グース・グリーンでの戦い	269
(a)	イギリス軍攻撃の予兆	269
(b)	イギリス軍の攻撃	269
i	攻撃開始位置までの移動	270
ii	攻撃開始	270
iii	前進の頓挫	274
第7節	イギリス軍のスタンレー攻撃準備	278
第1項	第3コマンド旅団のスタンレー攻撃準備	278
第2項	ケント山奪取	281
第3項	ケント山方面へ向けての兵力集中	283
第4項	第5歩兵旅団のフォークランド進出	288
第5項	第5歩兵大隊隷下部隊のスタンレー方面展開	289
第8節	スタンレーでの戦い	299
第1項	アルゼンチン軍の準備	299
第2項	6月11・12日の戦闘	303
a	イギリス軍のスタンレー西側外郭防衛線攻撃計画	303
b	ロングドン山の戦闘	305
c	ツー・シスターズ山の戦闘	311
d	ハリエット山の戦闘	313
第3項	6月13・14日の戦闘	318
a	イギリス軍のスタンレー西側外郭防衛線攻撃計画	318

b	タンブルダウン山の戦闘	319
c	ウィリアム山の占領	324
d	ワイアレスリッジの戦闘	325
第4項	アルゼンチンの降伏	327
第9節	まとめ	328
第10章	後方（兵站）の観点から見たフォークランド戦争	330
第1節	全 般	330
第1項	イギリス軍の後方支援に関する組織・制度	331
第2項	イギリスの諸島奪回作戦と後方支援	334
第3項	アルゼンチンの侵攻後の島嶼防衛と後方支援	346
おわりに		349
第2節	補 給	349
第3節	施 設	350
第4節	輸 送	350
第5節	広 報	352
第1項	対外国広報	352
第2項	事前計画および準備	352
第3項	特派員の派遣	352
第3部	現代に対するイプリケーション	356
はじめに		356
第11章	政治及び外交の次元でのイプリケーション	356
第12章	軍事の次元でのイプリケーション	358
おわりに		361
[図表目次]		
1	図	
図第1	イギリスのフォークランド諸島陸上軍（任務群 317.1）の構成	105
図第2	イギリスの指揮機構(1982.4.10～5.19)	111
図第3	イギリスの指揮機構(1982.4.2～4.9)	124
図第4	6月2日時点のイギリス軍の指揮機構	128

図第 5	イギリス任務部隊の航空兵力（当時）	136
図第 6	イギリス任務部隊の航空兵力（その後の統合状況）	137
図第 7	イギリス軍の展開状況（6月上旬）	141
図第 8	フォークランド諸島内におけるイギリス軍の兵力展開状況	147
図第 9	イギリス軍の特殊部隊の主要な活動	147
図第 10	2004 年頃のイギリスの国家レベルの指揮機構	148
図第 11	完全排除区域（半径 200 マイル）	168
図第 12	「ヘネラル・ベルグラノー」撃沈時の状況	179
図第 13	「シェフィールド」被害時の状況	192
図第 14	5 月 2 日から 21 日の間の主要事象	192
図第 15	アルゼンチン軍のスタンレー占領(1982 年 4 月 2 日)	214
図第 16	サウス・ジョージア島地図	221
図第 17	アルゼンチン軍兵力配備	225
図第 18	イギリス軍の上陸作戦実施候補地	236
図第 19	イギリス軍のサン・カルロス上陸地点	254
図第 20	グース・グリーンとの戦い——ジョーンズ中佐の計画	261
図第 21	グース・グリーンとの戦い	273
図第 22	サン・カルロス上陸後のイギリス地上部隊の機動状況	287
図第 23	6 月 11～12 日にかけての地上戦闘	305
図第 24	6 月 13～14 日にかけての地上戦闘	323
図第 25	フォークランド諸島の位置	355
図第 26	フォークランド諸島の地図	355

2 表

表第 1	両軍の排除区域の設定時期と主要事象	167
表第 2	フォークランド戦争史 年表	354